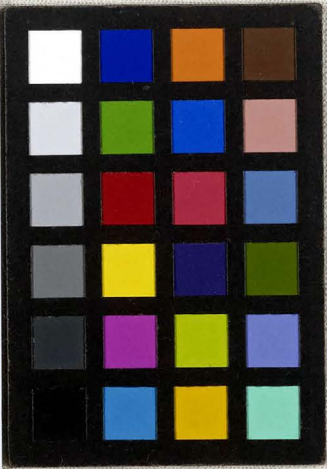




京すめ

大正  
四年





京籠卷第一目錄

序

此巻は所々ありし所々あり

山内此巻平安城今此京の初年將軍塚す

大内裏なりし年又城す

今此京より其の圖

此京の物圖





京宿卷第一

うきまゝりいどおしあし道すまふたり侍世乃  
 ちりたりとお合らうらまじやうふりあかたみ  
 しつかにゆきぬまらけとなくそあかくまはうら  
 ありまのしきむらあやあまきく新さうらわ  
 門とあふくまはたきしあつとゆきあはちやも  
 なるを九重丸條理いゆあしうりさしまはあ  
 ともかたしあしあつたにけけはあつちをくわ  
 ゆりあしあつちあつちあつちあつちあつちあつち  
 とあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち





のあまうにありおがりて人どまうのほくんま  
返されし町のみや部やめら家つらり  
らうあうとやめたらうひらびつあふあがり  
心みちをひひすたづりらう一侍そくもも  
とまう人けのらまひのありのまきも  
はうら申すくわすじあふ文の家書れた書  
そだ理らう町とらへらうあわも回書り記  
あまうのゆめをあらわすもあまうも  
葉田あまうまうと一條りの丸葉とてあ  
葉存らう東に京極とて町並と書つてもあ  
所あらうらうらうあまうとらう一回書人  
ゆらう

部とらあまうらあくら

をまそ京師の気持をたゆらうらあ  
ま下田のゆめをあらわすもあまうも  
たは武とまじし侍もあまうもあまうも  
あまうの東と西とあまうもあまうも  
あまうもあまうもあまうもあまうも  
あまうもあまうもあまうもあまうも  
あまうもあまうもあまうもあまうも  
あまうもあまうもあまうもあまうも











之年廿九歳に於て國よりてまゝに於て  
丁み給ふこまはあまの津思出の文とす  
持縁とるより先仁てんまゝに九代ハ  
宗良の事とすみ給ふ

しりかか年あ城今北京のまゝに  
お軍塚の中

しに人まゝに五丁代恒本とを延暦三年十月  
あしやろおあろの文とすしりかか  
てもまの文とすしりかか  
まゝにまゝにまゝに

之福人正月日人地を  
紀古作舟人信部  
葛神部  
奏しし  
ゆり  
わ  
神  
十三年  
あ  
と















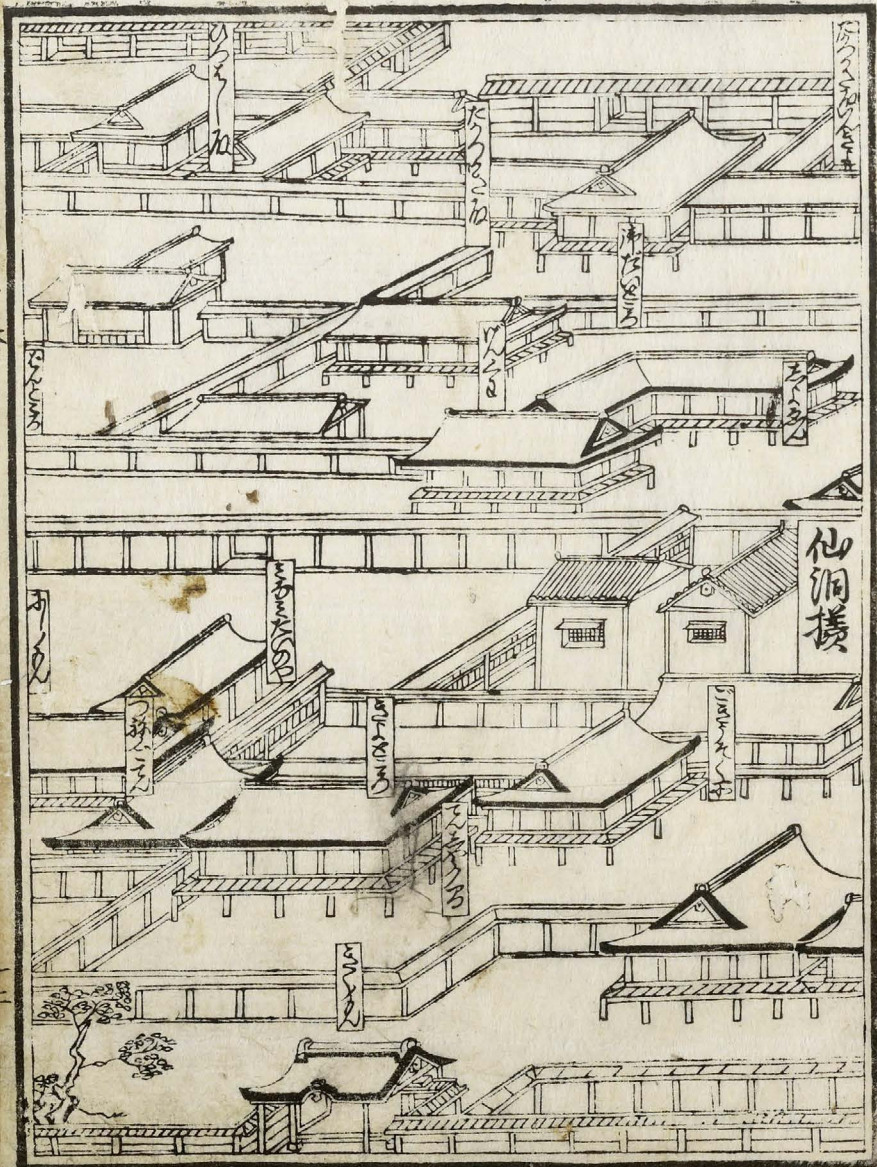
まぐひのり京の御くはまきつてさうこの  
ゆつに仔細物さうりまじりて京のまじり  
あやもいしきさうりて中ゆさうりて  
たぐりの宿さうりてめまわさうりてやと  
さうりてさうりて大内裏とほりてさうり  
ま城のすし門とさうりて國の遠近とてさ  
さうりてまのながさうりて殿とさうりて  
まのりてさうりて大内裏とさうりて大内  
りあうりてさうりてさうりて二條とさうり  
門わり今此の朱存通の南三門のりて中此朱

権つておありひが三門のりて陽明の通御  
通うりてさうりて行買つりて此のりて  
都のりて大炊のりてのりてわさうりて  
とまのりてさうりてのりてわさうりて  
さうりて百友法司のりて坊院のりて  
ほうりてさうりて今さうりてのりて大内裏  
のりてわさうりてさうりてのりて田島  
のりてさうりてこのりて今此のりて  
さうりてさうりてさうりて  
さうりてのりてさうりて  
さうりてのりてさうりて

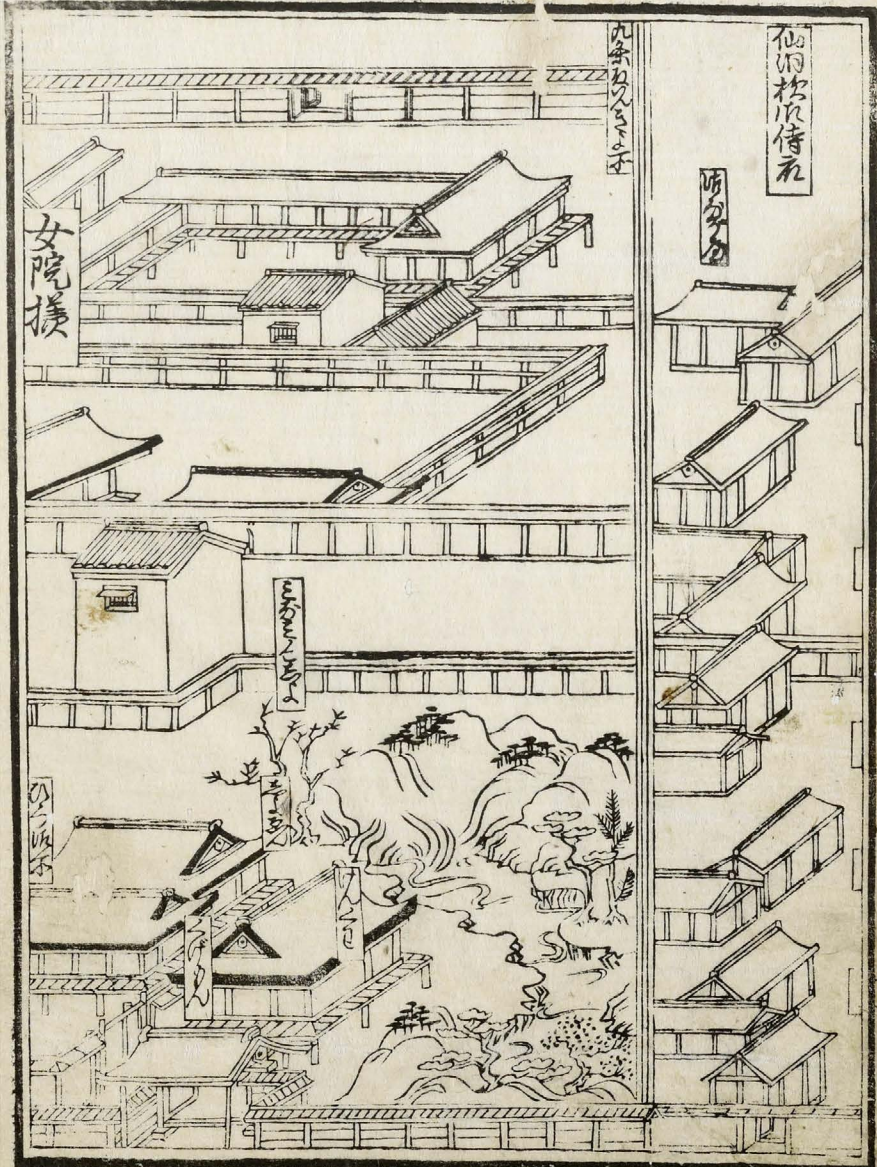








仙洞様

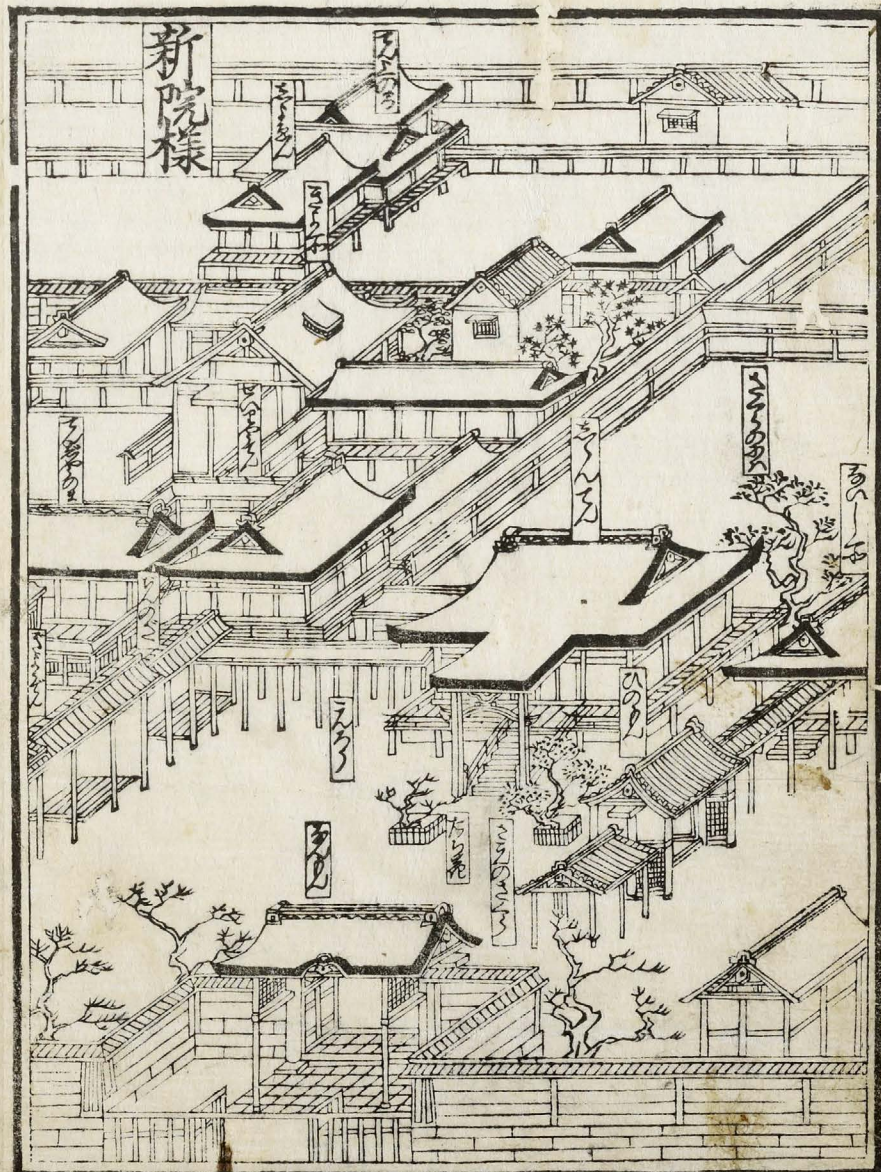
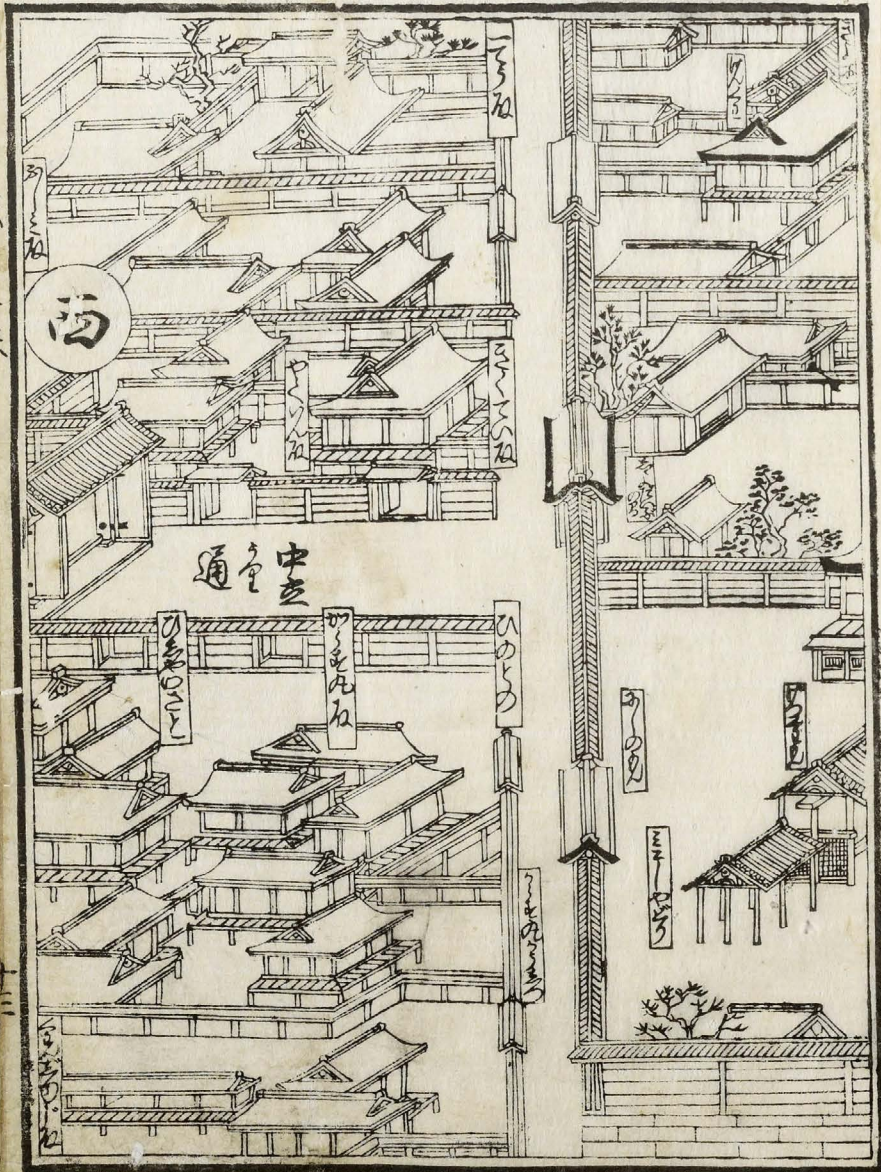


仙洞松原侍所

女院様

丸太

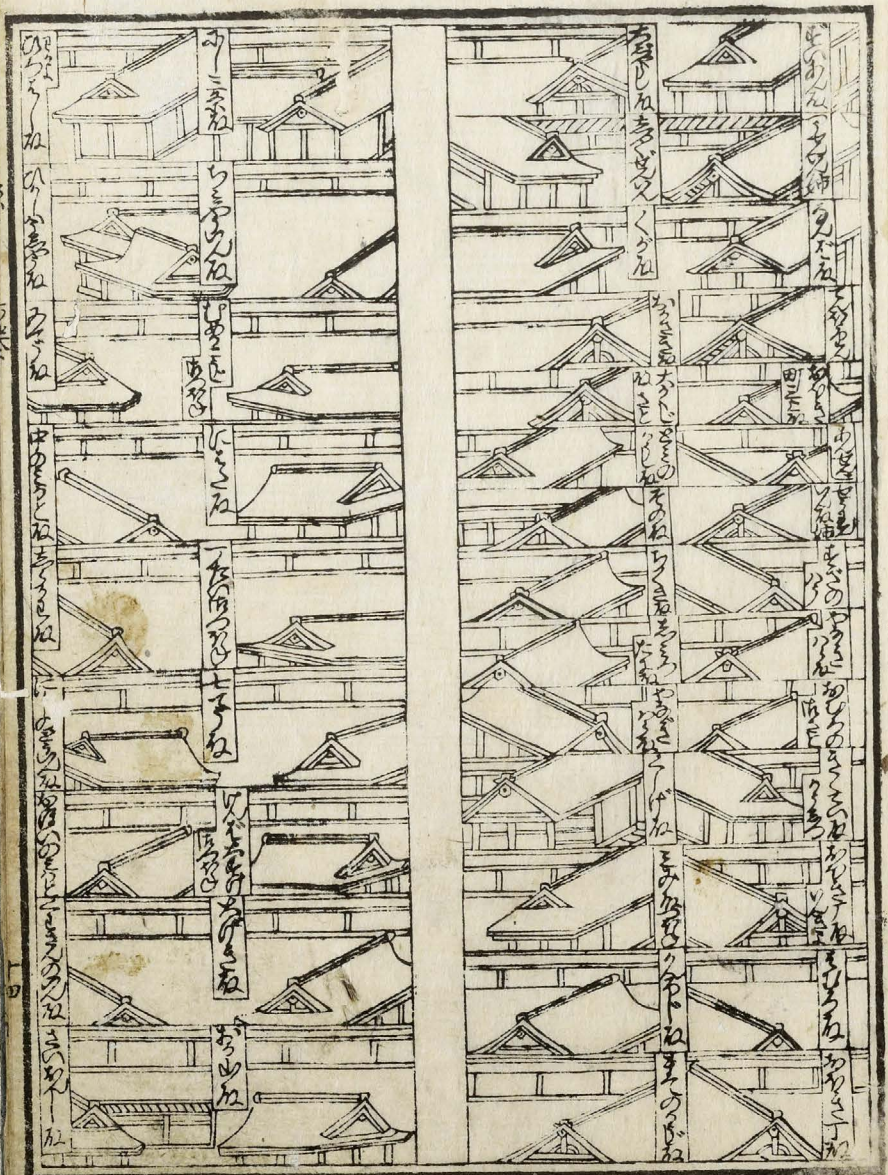
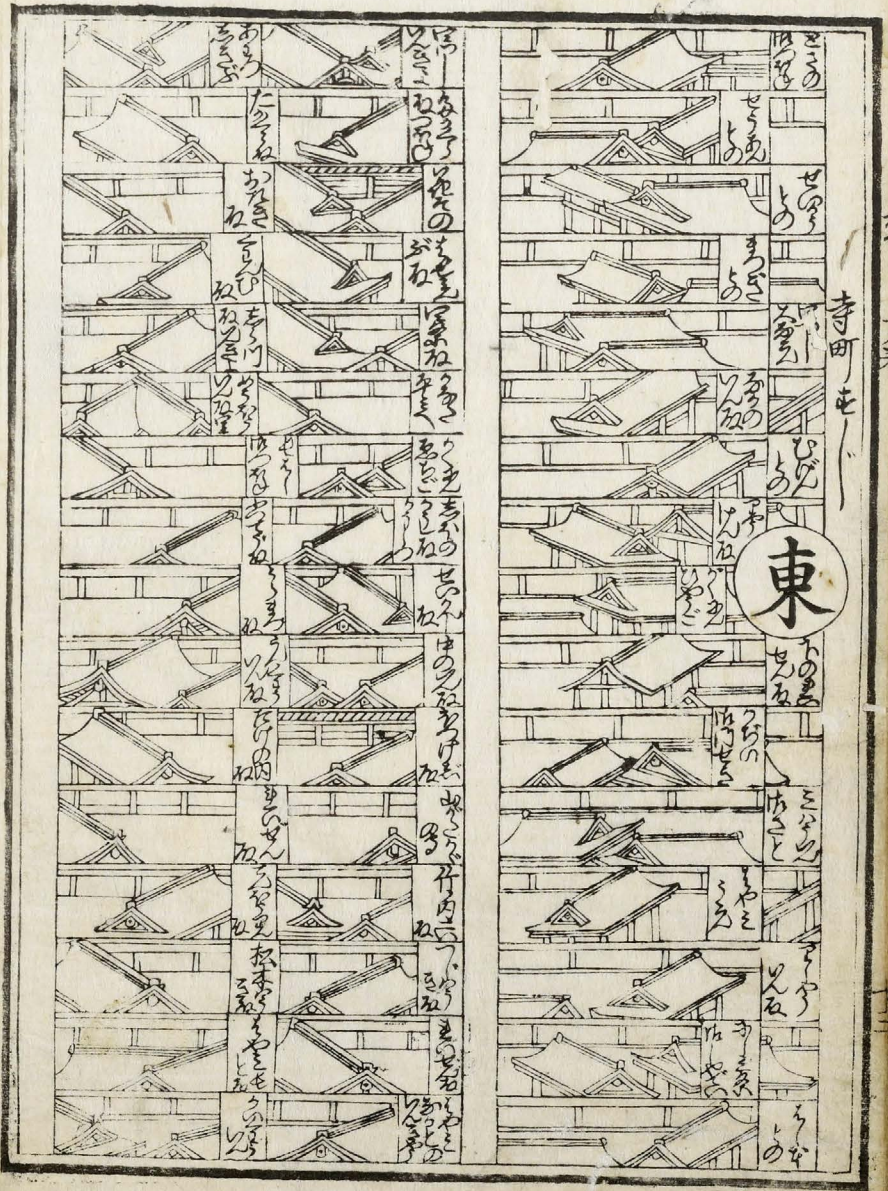




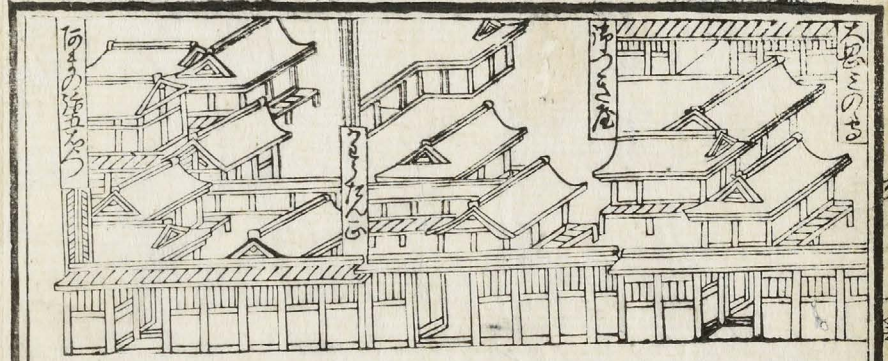
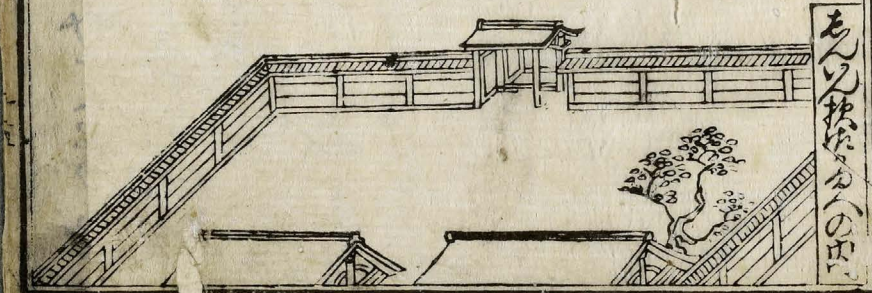
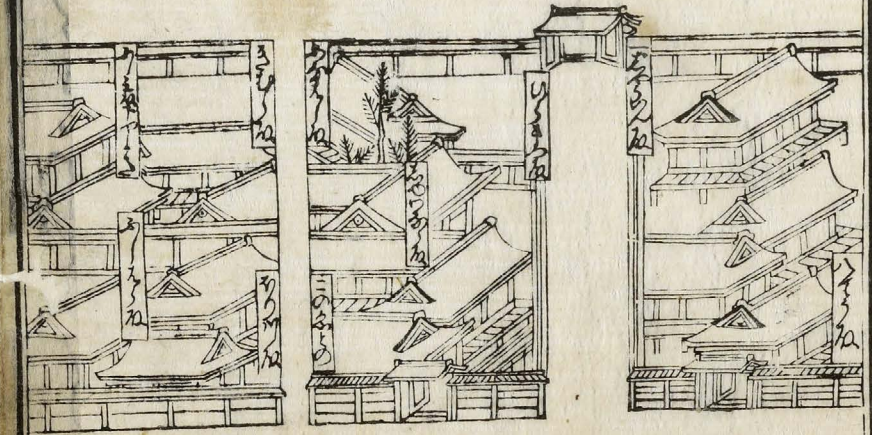
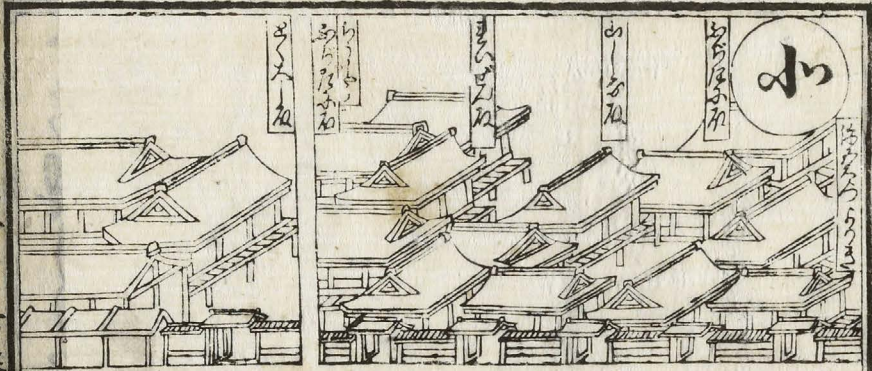


寺町

東







通川てはい

